

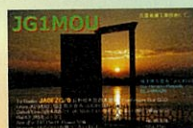
新連載

T u r b o

H A M L O G の



部屋

 Turbo HAMLOG 開発者
 JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada


第 1 回

Turbo HAMLOG のご紹介

今月号から Turbo HAMLOG や HAMLOG E-Mail QSL (hQSL) について解説させていただくこととなりました。よろしくお祈いします。

特に Turbo HAMLOG については 30 年以上前から続けており、筆者自身が忘れていた部分もあります。必要に応じて自分で記述したヘルプファイルやソースコードを確認しながら執筆してまいりますので、お付き合いください(※1)。

アマチュア無線のために
パソコンを導入

筆者がパソコンを購入したのは 1987 年で、当時流行っていたパケット通信をやりたいことと、ログ管理をパソコンでやりたい、という理由でした。

その頃は、ようやく職場にもワードプロセッサが導入され始めたのですが、パソコンはパケット通信をやっているローカル局のシャックで見たことがある程度という状況でした(※2)。

パケット通信を開局

そうした中、中古のパソコン (NEC PC-9801vm2) を購入し、通信ソフトはローカル局からコピーしてもらって 1 つ目の目的であるパケット通信を始めること

ができました。

パケット通信にはハマりましたね。DX よりもパケット通信のほうが面白く、時間があればシャックでピーギヤーとやっていた、hi。

もちろん、初めてのパソコンですので、ここに至るまでは難儀しました。フロッピーディスク 2 枚ですべて動作させる必要があり、AUTOEXEC.BAT ファイルや CONFIG.SYS ファイルとか、現在では覚える必要のないファイルを作成する必要があったり、システムディスクをうっかりフォーマットしてしまったりとか、hi hi。

パソコンでログ管理

2 つ目の目的、パソコンでログ管理です。当時、通信ソフトは TBITERM や DXTERM など、秀逸なフリーソフトが出回っていましたが、無償で入手できるログ管理ソフトは見当たらず、秋葉原のハムショップで 1 万数千円で購入してきました。

紙のログ帳から一生懸命に 4 千件ほど交信データを入力してから気がついたのは、交信しながらログ入力することは不可能ということでした。

Turbo HAMLOG 開発の経緯

インターネットなどない時代でしたので、その後も

※1 ヘルプファイルとは画面上で確認する取扱説明書です。Turbo HAMLOG/Win では、キーボードの F1 キーを押すと、その状況に応じた説明が表示されます。ソースコードとはソフトウェアの設計図みたいなもので、Turbo HAMLOG/Win では Pascal 言語と C 言語で記述しています。

CQ誌やHAM Journal誌などからログ管理ソフトの情報を探したのですが、交信しながらログ入力ができるようなログ管理ソフトは見つかりません。

なければ自分で作っちゃえ！とデータベースソフトを使って作成したのがHAMLOGの原形です。とりあえず交信しながら入力することはできました。

1989年、このとき筆者は30歳を過ぎた頃。もちろんプログラミングなど学習したことはありませんし、仕事もどちらかというと体育会系の職場です。

Turbo HAMLOGをリリース

何かを作るという作業は楽しいもので、頭の中で思い描いたとおりに動作してくれると嬉しいものです。周辺機器やアンテナの自作と同様です。1991年、Turbo C++というC言語の開発ソフトで作り直したのを契機に、Turbo HAMLOGと命名しました。

Turbo HAMLOGのDOS/V版をリリース

漢字を扱うという壁があったため、それまでのパソコンはNEC PC-9801シリーズが主流でしたが、機器の進歩により海外のパソコンでも漢字が使えるようになってきました。DOS/Vパソコンです。

1994年、IBM-PC互換機で動作するTurbo HAMLOGをリリースしました。DOS/V版です(写真1)。

この年は、Turbo HAMLOGが電子ネットワーク協会から第3回フリーソフトウェア大賞の特別賞を受賞しました(写真1)。

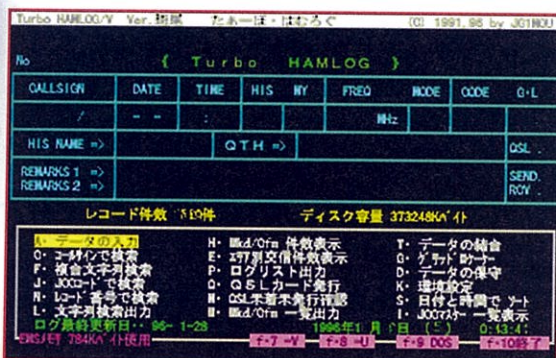
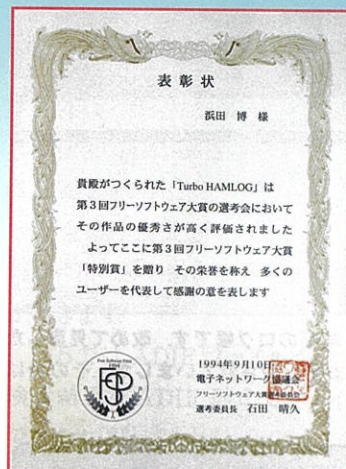


図1 Turbo HAMLOGのDOS/V版。現在の64ビットパソコンでは動作しない

写真1 ソフトウェア大賞の 特別賞の表彰状



フリーソフトウェア大賞では秀丸エディタやJW_CADなど、現在においても著名なソフトが大賞を受賞しています。新宿の

ホテルで授賞式が執り行われ、筆者のような素人には場違いのような気もしましたが、本業でいただいた県知事表彰よりも光栄なことでした。

Turbo HAMLOG Windows版

1996年、Windows 95が発表された翌年となりますが、Turbo HAMLOG/Winをリリースしました。

QSOデータはPC-9801版やDOS/V版と互換でしたが、2004年にQSOデータの形式を変更し、その後改良を重ねつつ現在に至っています。

現在のTurbo HAMLOG/Winでも古いWindows XPあたりで動作するようですが、インターネット接続を伴う機能についてはWindows 11やWindows 10でなければうまく動作しないと思います。なるべく最新版をご利用ください。

Turbo HAMLOG/Winの 主な機能

Turbo HAMLOG (以下、HAMLOGと略します) は、交信しながら入力できること、間違った場合は容易に修正できることと、何回目の交信で以前はどのバンド・モードで交信していたかなどが即座に分かることを主眼に開発しました。

実際のところ、HAMLOGの開発者である筆者よりも深く使いこなしている方がたくさんいらっしゃいますので今さらな感がありますが、初心に戻ってまずは主な機能からご紹介したいと思います。

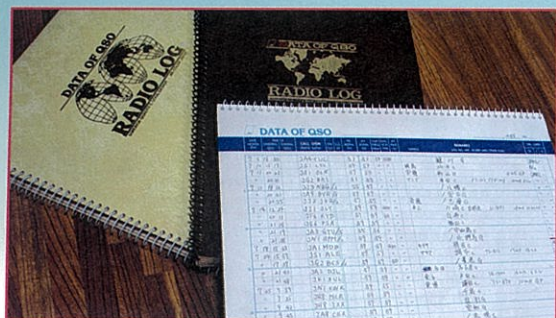


写真2 筆者の1986年頃のログ帳です。改めて見直したところ、1989年8月まで記載されていた。その後はHAMLOG入力

相手局コールサインを入れて Enterキーを押す

写真2は、筆者の1986年頃のログ帳です。このように、市販の紙のログ帳では交信した日付・時刻から記入していきますが、HAMLOGではコールサインから入力します。日付・時刻はパソコンから自動的に取り込めばよいので、初めにコールサインを入力する仕様としました。

図2は、筆者のフレンド局のコールサインを入力した状況です。

図2の入力ウィンドウを見ますと、

- 162回目の交信で161枚のQSLを受領済み
- 相手局運用地の市役所までの方位と距離を表示

- 日付と時刻はパソコンから取り込まれた値
- SSBなのでRSレポートはとりあえず59
- 周波数とモードはリグから取得した値
- 氏名やQTHはHAMLOGユーザーリストから取り込まれた情報※3)
- 入力ウィンドウの下には交信履歴が一覧表示
(表示位置はお好みに応じ修正可能)
- 右側には過去に届いたhQSLシステムによる電子QSLを表示
その他に、図2にはありませんが、
- 電子QSL以外でも、アイボール時の写真を表示
- DX局との交信のときはQTH欄にエンティティが自動入力※4)
- 相手局運用地の市区町村またはDXエンティティとの、過去に交信したバンド・モード別の状況を別ウィンドウで表示
- 相手局設置場所の市区町村名を総務省無線局等情報検索のホームページからQTH欄にコピー
- 相手局の無線局免許情報を別ウィンドウで表示※5)
- コールサイン入力欄で過去ログやHAMLOGユーザーリストなどからワイルドカード検索や部分文字列検索が可能※6)

HAMLOGでは、コールサインを入力した瞬間にこのような処理を実行しています。そのため、コールサインを入力して内容を確認したらF12キーを押して即



図2
筆者フレンド局
のコールサイン
を入力した
状況

※3 HAMLOGユーザーリストは、本人の意思により登録していただくデータで、登録済みの方が利用できます。2024年5月末で16,800局ほどが登録されています。図2のQTHは、移動運用なので手入力でした。

※4 HAMLOGでは、CTY.DATというファイルからDXエンティティを自動入力しています。Big CTYというデータで、WSJT-XやJTDXにも入っています。CTY.DATファイルは月に1〜2回アップデートされており、次のURLから最新版を入手することができます。

<https://www.country-files.com/>

※5 本誌2024年1月号でご紹介した図8の免許状Get'sという機能です。総務省無線局等情報検索のホームページからQTH(市区町村)を取得するとともに、相手局の免許情報を表示します。

※6 ワイルドカードは、MS-DOSの時代からパソコンをお使いならご存じの方も多いと思いますが、トランプのワイルドカードのような意味で、任意の文字を表す記号です。*UではラストレターがUの局を検索し、トップレターだけわからない場合は、例えばJG1?OUで検索します。

保存、ということもよくあります※7。

なお、図2のフレンド局はHAMLOGの交信データが35万件に近づいてきたそうですが、サクサクと動作しているとのレポートをいただいています。

QSLカードの印刷

QSLカード印刷は、定義ファイルという簡単なプログラム(命令文)のようなものを記述し、印字内容や印字位置をユーザーが好きなように設定することができます。写真も印刷できます。

図3は、筆者のQSLカードのイメージで、はがきサイズの白紙に印刷しています。

図3中央右のハンコは、HAMLOGユーザーが作ってくださった命令文を使っています。

右下のQRコードは、本誌2023年11月号で紹介したQRコードです。このQSLカードを受け取った局は、QRコードにより一発で該当する交信記録を探することができます。

QSLカード印刷定義ファイルは、サンプルがいくつか入っていますし、ネット上でも探すことができると思います。

最近では用紙節約とQSLビューローの負担軽減のため、1枚の用紙に複数の交信を記載できる定義ファイルが便利なようです。

To Radio
JJ2UDF/2 JJ 2 U D F

Confirming Our QSO

Date	Time	dB	MHz	2Way
2024 May 10	14:43	-06	7	FT8

Rig: IC-7410 Power 50W
Ant: 15mH 逆V-DP
Rmks: FBなQSO有難うございました!!
今後ともよろしくお願ひします。
QSL#38, 338 TNX QSL

TURBO HAMLOG
JG1MOM
Hisashi Homada ACC#2500
https://hamlog.sakura.ne.jp/
JCC#1332 Kuki-City Saitama GL:PM96UB

ごめん
ひなたぼっこ会



図3
筆者のQSLカードのイメージ。はがきサイズの白紙に印刷している

豊富な検索機能とADIF出力

図4は、HAMLOGの検索メニューです。いろいろな検索方法があるのですが、本稿では図5の複合条件検索をご紹介します。

複合条件検索ですので、例えば2023年に7MHz帯で“市”と交信したデータを抽出する、ということがができます。

図5ではADIFファイルが選択されていますので、検索結果をADIF形式でファイルに出力することができます※8。

右下には[eQSL.cc]というボタンがあり、eQSL.ccのホームページを開いて検索結果のADIFファイルをアップロードすることができます。

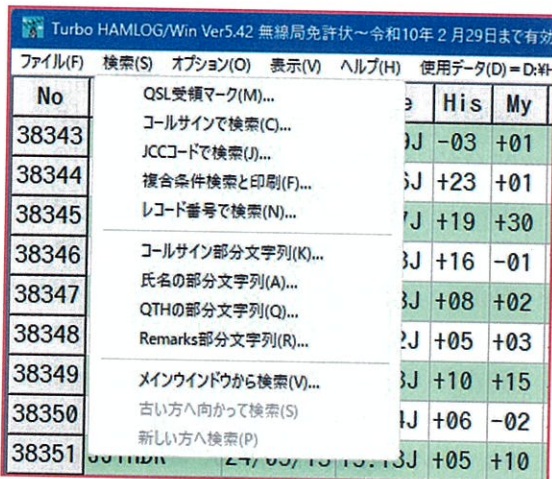


図4 部分文字列検索やワイルドカード検索も可能

検索条件の設定

☒ 先頭から検索 ☐ 最後から検索

日付範囲 00/00/00 から 24/05/17

レコード番号 35347 から 38356

☐ 入力順 ☐ コールサイン順 ☐ (同上)重複無し ☐ JCC/Gコード順 ☐ (同上)重複無し ☐ グリッドロケーター順 ☐ (同上)重複無し

出力先
☐ 一覧表示のみ
☐ テキストファイル
☐ プリンター
☐ CSVファイル
☐ エクセルに出力
☒ ADIFファイル

ADIF
☐ Remarks出力 ☐ 数字列% ☐ /除く
☒ QSL印刷から ☒ 全角除く ☒ QSL除く
☐ <GRIDSQUARE> ☐ DX局のみ

出力ファイル名 D:\LogList.adif

編集(E) 検索無し 検索-1 検索-2 閉じる eQSL.cc

図5 検索範囲、出力先など細かく設定できる

※7 HAMLOGでは、交信中はキーボードでデータ入力をするものという考えで作成しました。環境設定には[キー割当]という設定項目があり、キー入力のある程度カスタマイズ可能です。

※8 ADIFファイル出力は、複合条件検索以外でもQSLカード印刷の機能を使って出力することができます。QSLカード印刷の定義ファイルにADIF出力命令を記述することにより、ADIFの出力内容をカスタマイズすることができます。本誌2023年1月号でもご紹介いただきました。

インターネットの利用

HAMLOG 最新版の確認とダウンロード

図6は、ヘルプメニューです。図7は、ヘルプメニューから[バージョン情報]を表示した状況です。ホームページを開かなくとも、このウィンドウからHAMLOG 最新版の確認、ダウンロードとインストールが可能です。また、現在使用しているファイルが表示されています。

図6のヘルプメニューには、お気に入りのホームページや他のアプリを登録しておくことができます。



図6 ヘルプ(取扱説明書)のほか、お気に入りのホームページやアプリを登録しておくことができる



図7 HAMLOG のバージョン情報のほか、使用中のファイル名が表示されている。このウィンドウから最新版の確認とダウンロード、インストールもできる

総務省ホームページから無線局免許情報を取得

図8は、本誌 2024 年 1 月号でご紹介した「免許状 Get's」という機能で、図9のオプションメニューから起動します。

免許状 Get's は、コールサインをもとに総務省の無線局等情報検索のページから QTH 情報を取得するとともに免許情報を表示します。

また、[QRZ] ボタンをクリックすると、QRZ.com のページをブラウザで表示し、[Map] ボタンをクリックすると地図が表示されます。図8の場合は文京区役所付近が表示されます。

HAMLOG ユーザーリストのダウンロード

図10は、図9のオプションメニューから[ユーザーリスト Get's]を起動した状況です。



図8 オプション機能の免許状 Get's. HAM LOG の入力ウィンドウに JA1YCQ と入力し、その免許情報が表示されている

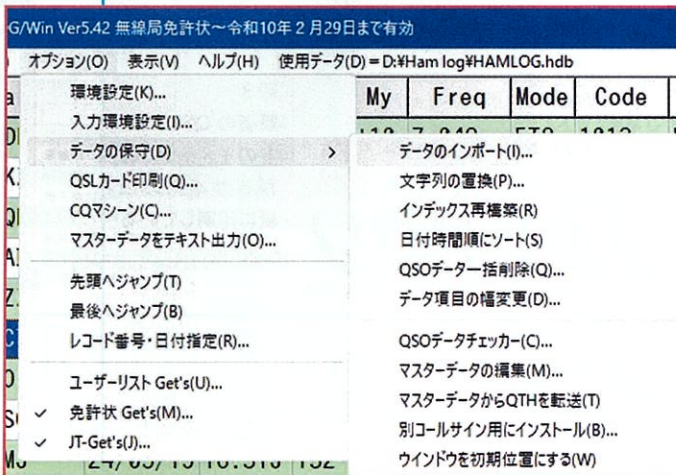


図9 HAMLOG のオプションメニュー、各種設定のほかオプション機能
を用意し、[データの保守]ではサブメニューがある

HAMLOG ユーザーリスト登録局であれば、ホームページを開かなくともこのウィンドウから最新のユーザーリストをダウンロードして組み込んだり、登録内容を変更することが可能です。

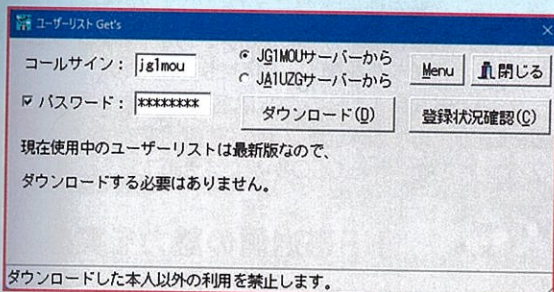


図10 オプション機能のユーザーリスト Get's。ホームページを使わずに HAMLOG ユーザーリストのダウンロードや修正登録などができる

WSJT-XやJTDXと連携する JT-Get's

最後に、本誌 2023 年 7 月号でご紹介しましたが、人気のモード FT8 で使う WSJT-X や JTDX を、HAMLOG と連携させる JT-Get's をご紹介します。この機能も、図9のオプションメニューから起動します。

図11は、筆者が移動運用に使うノートパソコンで、

WSJT-X を使用して 144MHz にて FT8 で交信している状況です。

図11の左側のウィンドウが JT-Get's で、JT-Get's が表示している交信内容は WSJT-X がデコードしてその左側に表示している交信内容です。

JT-Get's の Before 欄には、自分が過去にどのバンド・モードで交信しているかが表示されています。さらに、いつ交信しているか、QSL は受領しているかも表示させることができます。

また、JT-Get's に表示している局をダブルクリックすると、WSJT-X や JTDX が送信を開始します。交信完了後は、HAMLOG の入力ウィンドウに交信内容が転送され、ログとして登録することができます。

結びに

Windows 版 Turbo HAMLOG を作り始めて 30 年近く経過しますので、ユーザーからのアイデアや筆者の思い付きで他にもたくさんの機能を盛り込んであります。

今回は、筆者の推しの機能をご紹介させていただきました。次号からは個別にピックアップしてまいりたいと思います。

◎◎

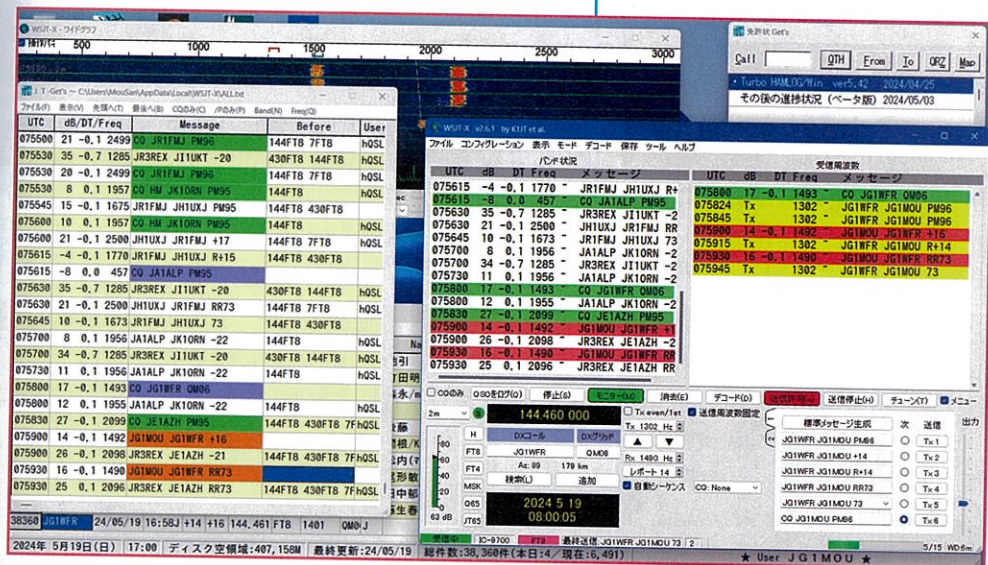


図11 筆者のノートパソコンで JT-Get's を動作させている状況。WSJT-X や JTDX と連携し、FT8 による交信の B4 が一目瞭然となる

Turbo HAMLOG の公式サイト

<http://www.hamlog.com/>